

21世紀の日本のかたち（52）

—東北州・州都「平泉」案—



戸沼幸市
＜(財)日本開発構想研究所 理事長＞

1. 世界遺産「平泉」の春

4月21日（土）22日（日）、桜が咲き始めた東北の春の日、世界遺産となった「平泉」を訪ねました。

「五月雨の降り残してや光堂」は、芭蕉が奥の細道の道中「平泉」で詠んだ一句ですが、藤原清衡（1056～1128）が天治元年（1124）に建立した金色堂は、千年近い年月を経たにもかかわらず、現代に強いメッセージを発していると感じました。

金色堂は極楽浄土への往生を願う阿弥陀信仰を“金”をもって表現した千年つづく阿弥陀建築です。

現存する金堂は、鎌倉幕府の事跡を記した歴史書「吾妻鏡」に「上下・四壁・内殿皆金色なり。堂内に三壇を構う。悉く螺鈿なり。阿弥陀三尊・二天・六地藏、定朝これを造る」との記載があり、堂内の諸仏構成と荘厳さが現存のものと完全に一致しているとのことです。

建立から千年近く経った現在も光り輝いている造形を、東北のこの場所に置いた藤原清衡の意図と思想性が現代あらためて脚光を浴びているのです。

芭蕉の見た金色堂は旧覆堂の中にあっただのが、今はコンクリートの新覆堂の中に丸ごと

納められておりました。世界遺産の中核施設、金色堂のある中尊寺一带は、私の訪れた時も見学者は大勢でしたが、5月の連休は更に賑やかだった様子です。

中尊寺金色堂新覆堂⁽¹⁾



中尊寺金色堂内陣⁽²⁾



昨年、2011年6月、世界遺産に認定された平泉は、仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群であり、構成資産は中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山と、ランドスケープ全体、いわば平泉という中世・奥州の都が指定されたこととなります。

毛越寺は嘉祥3年（850）、慈覚大師の創建になり、2代藤原基衡（?～1157）が造営に着手、3代秀衡（?～1187）の時代に堂が完成、堂塔40、僧坊500と記録されております。毛越寺庭園は広々とした池、これを囲んで草地と木立の緑があり、その向こうにゆるやかな丘陵地があり、ここに立つと身心にやすらぎを感じる浄土庭園です。

毛越寺庭園（特別史跡・特別名勝）⁽³⁾



毛越寺に隣接する観自在王院（跡）も池を配してつくられています。藤原基衡夫人が建立したと伝えられています。

無量光院（跡）は秀衡が宇治平等院の鳳凰堂にならって建立したといわれる寺院で、舞鶴が池に面して建てられており、建築の南北の軸線は北の金鶏山と一致し、このランドスケープの中で、夕方、太陽が沈む落日の瞬間、極楽浄土を体現できる演出、宗教的空間が現れるとの解説がありました。

無量光院跡（特別史跡）⁽⁴⁾



無量光院（復元CG）⁽⁵⁾



歴代の藤原氏が山頂に経塚を築いた信仰の山、金鶏山も遺産の中に入っています。この山が中尊寺と毛越寺の間に位置している点は興味深いランドスケープです。

判官九郎義経堂のある小高い丘陵地にも登ってみました。眼下に北上川がゆったりと流れておりました。川向こうに東稲山（東山）があり、平泉の大地形が一望できます。

「夏草や兵どもが夢の跡」、元禄3年（1689）の旧暦5月にここを訪れた芭蕉の句ですが、一面に生い茂った夏草の下に沈んだ儂いよう

な人間の歴史の1コマを、一瞬イメージしたのでしょうか。

この場所に立って改めて、千年も前、北上川の東岸地域に築かれた奥州の都「平泉」の立地、広がり、組み立てに興味を覚えます。

中尊寺と平泉の史跡地図⁽⁶⁾



藤原清衡は優れた「都」の設計者にちがいません。奥州の新都構想「浄土」を実現する格好の場所をこの土地に見出したといえます。中世にあってゆるやかな丘陵地は、都の権威づけに欠かせない仏教、寺院の造営と配置に適しています。

金鶏山をはさんで、中尊寺エリア、毛越寺エリアに自然地形を生かして池をつくり、平和な浄土を実現しました。

その中でも中尊寺金色堂は人々の気持ちを引き寄せる焦点となりました。

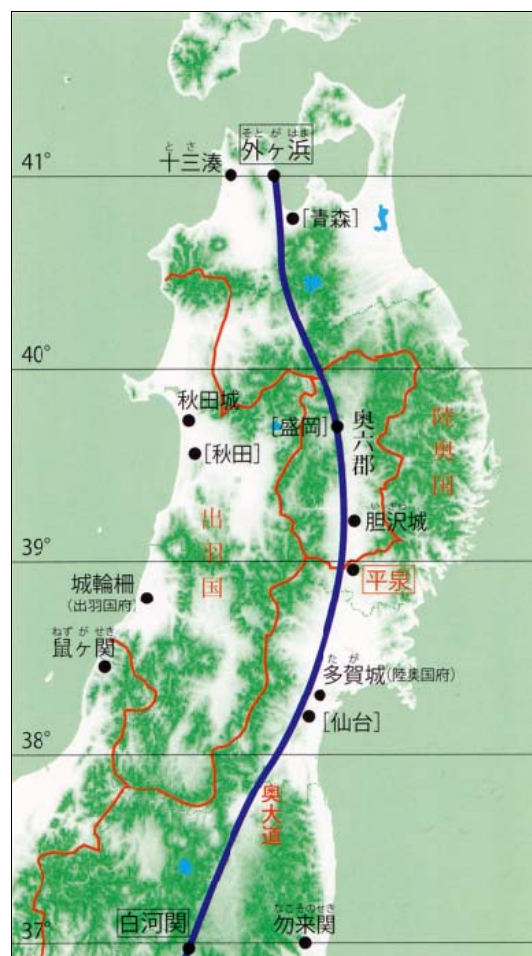
平泉の世界遺産と関連する資産として、柳之御所(遺跡)、白鳥館(遺跡)、長者ヶ原(廃寺跡)、骨寺村荘園跡と農村景観があります。都には牛馬の往来した大路もあり、堂々たる奥州の都であったことが数々の遺跡から推定されます。

平泉のある北上川の東の地域は肥沃な穀倉

地帯でした。またこの地方は金などの産地でもありました。

平泉は東に北上川、南北、西に丘陵地と、防衛上有利な地形をもっています。それでいて奥州の中心の位置、南は白河関と北は外ヶ浜との中間にあります。奥大道につながり、交易の要の場所でした。場所の力もたらす藤原の潤沢な財力も平泉の建設を支えたことでしょう。

平泉と奥大道(平安時代の東北地方)⁽⁷⁾



2. 東北州・州都「平泉」のイメージ

4月21日、公益法人日本都市計画学会東北支部(青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島、新潟県)の総会が仙台の戦災復興記念館であり、私も招かれて出席しました。東北支部の

会員諸氏は、3.11の東日本大震災後、被災地に入り、様々なやり方で復旧、復興活動を続けており、現場での困難や緊急に取り組むべき課題について意見交換をしました。

東北7県をカバーする日本都市計画学会東北支部としての大地震津波災への対応とともに、この領域の都市、地域のかたち、21世紀の東北のかたちをどの様に考えるかは基本的な問題です。

私自身、東北（青森）出身であり、半世紀以上も東北各県の地域づくり、都市づくりに関わってきた経緯もあり、この地方への思い入れが強いのですが、若い会員諸氏に期待するところ大です。

この東北支部総会において、私も話題提供の機会を与えられ、「東北からの国づくりー東北州構想」について改めて話してみました。

かつて、私も参画した早稲田大学21世紀の日本研究会において、1970年、当時の政府（佐藤栄作内閣）に対し、全国を流域圏を単位とする300程度のまとまりを基礎自治体（市）とし、これをくくる地方の枠組みとして、道州制を提案したことがあります。

この時の道州制のブロックは、日本列島を太平洋側と日本海側を含む様に輪切りにする7ブロック案でした。この案では東北州は6県（青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島）でした。新潟は関東州に区分しました。新潟は独特な位置をもっており、現在は自ら「新潟州」を称えております。

都市計画学会東北支部として、道州制、「東北州」をどの様な枠組みで考えるかは一つのテーマにちがひありません。

東北の未来像の構築は3.11大震災対応と同時に進められるべきものでしょう。

私が東北支部学会で東北州を話題にした日（平成24年4月20日）、偶然にも村井宮城県知事も参加した「道州制推進知事、指定都市市長連合設立総会」が東京でありました。設立趣意書には

「人口減少、超高齢化社会の到来、グローバル化の進展、東日本大震災からの復旧、復興など、困難な課題に直面しており、この課題に対して国全体で適切に対応していくためにも、有効性を失った中央集権体制を打破し、国と地方の双方の政府を再構築することで、地域主権の“新しい国のかたち”を創造することが求められている。」

というものでした。

たしかに、昨今の政治情勢からみて、私自身も道州制は一步も二歩も進めるべきと考えます。

さて、「東北州」についての議論ですが、その必要性や枠組みについてのそもそも論もさることながら、東北州が出来ると仮定して、「州都」の位置を話題にしてみました。仙台案、各県都持ち回り案などが考えられます。

私としては、州都「平泉」はどうかと考えます。平泉州都案については他にもとなえている方々もおります。

ところで州都平泉のイメージですが、かつての奥州の都、浄土（平和）の再現に近いものです。規模は3万～5万人程度のコンパクトな都市です。

州都の中心施設、3権一州議会、州政府、州裁判所をどの様な形で、どの様に配置するか。

奥州平泉の山並みを背景に、浄土庭園を囲んで3権を配置するか、あるいは州議会をシンボリックに際立たせ、州政府は基礎自治体が

主導する地域経営にあつてコンパクトな小さな政府とする案、州裁判所分散案もありかもしれません。

いずれにしろ、州都のランドスケープには平泉の稜線を超える高層建築などは似合わないと思うのです。

21世紀の東北の州都は過剰に人や諸物が集まる実中心というよりは、虚中心、空芯といったイメージのものです。州都の活動は自然の再生エネルギーでまかなわれ、典型的な21世紀のエコポリス、生態系都市づくりにつながるのです。それでいて、グローバルな情報化社会に立ち向かう、諸技術はおおいに活用すべきと考えます。

州都平泉は、現在の交通体系にあつても、東北各県から容易にアクセスできます。

現在、日本は人口減少、少子超高齢化時代に入っています。東北にあつては、千年に一度の大自然災害によって多数の死者を出しました。そして原発の破壊による深刻な人災に遭遇しています。死者を含む、地域のあり方を根元から問い直すほかない事態です。

世界遺産平泉に見る、浄土（平和、平穩）の思想と都づくりは、これからの州都づくりに多くのことを示唆している様に感じます。

【出典】

- ・文中図版の(1)(2)(3)(4)(6)(7)は「世界遺産 中尊寺」中尊寺編集・発行(2011年)を使用し、(5)は「平泉」岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課(平泉世界遺産担当)発行(2011年)を使用した。

(2012.05.15)